

日頃よりロータリーの皆様には神保町の街を注目して頂き有り難う御座います。私の店も神保町で120年余り営業しております。古書店街も明治の中頃から現在まで100軒を挟んで増減はありますが、現在は124軒と何とか維持しています。八木壮一さんと5年前に神保町の街の有り様、たまたまいをどう残し発展させていくか私が座長になって神保町未来会議を立ち上げ、3年前からは千代田区の補助金を活用して明治大学、国立女子大学、首都大学東京の3校の建築学部の先生方と神保町の調査研究そして議論をしてきました。昨年千代田区も加わってシンポジウムを3月に開催予定でしたが、コロナで中止になりました。しかし、この取り組みは評価され、中規模の共同建て替え敷地300坪から500坪の建て替えに地域合意が出来ればインセンティブを付与することで進んでいます。一つは駐車場付置義務の緩和です。今、駐車場の需給は付置義務のお陰で駐車スペースが余り、開発系の駐車スペースがビル管理費運営に大きな負担になっています。また、中小のビルはその駐車場入り口の分路面のお店が出来なくなりビル収益に影響します。駐車場の供給を開発系の大きなビルの駐車場に担ってもらい、中小のビルの付置義務を緩和してもらおう方向で動き始めました。これで随分と中小ビルの共同建て替えは負担が軽減されます。

千代田区の人口は20年前3万9000人でした。現在は6万7000人、この間千代田区住宅付置条例、借り上げ型住宅や勿論区民住宅区営住宅等総動員して定住人口確保に努めてきました。社会経済の方向も相まって当初の目標5万人を大きく超えてきました。これからは新しくマンションが増えていることから自律的に人口は増えていくでしょう。

地域によりますが、今、街づくりに必要なのは1階に商店を誘導することです。定住人口増加の流れを今後は商店を増やす施策に舵を切る時ではないでしょうか。今、千代田区は23年ぶりに都市計画マスタープランの作業中です。昨年暮れに私も神保町地区の公述会でお話しをしてきました。大規模な再開発には東京都や千代田区から大きな補助金が入っていきます。これはこれで大切な仕組みだと思いますが、並行して中規模の共同ビルの建て替えが大事です。路面の部分に従前からのお店が残せる街づくり、神保町の街の魅力は古くからあるお店が元気にやっつけられる事だと確信しています。

もう一つ今年はパラリンピックがあります。車椅子トイレをもっと多く神保町の商店街のお店に設置して更にどこのお店に行けば利用出来るかアナウンスしたいと考えています。行政や交通事業者がバリアフリー

化を進めています。車椅子で通りの歩道まではたどり着くことはできますが、安心して食事をしたり、買い物したりして頂く環境が街としてまったく出来ていません。おととしから千代田区と東京都の予算の車椅子トイレ改修工事の補助金を調べましたがありませんでした。今度区長になった樋口さんには都議の時から要望をしていましたが、樋口新区長には引き続き車椅子トイレ改修工事の補助金の要望をしていこうと思っています。勿論トイレだけ改修すれば終わる話ではありません。障害者の皆さんが美味しいご飯を食べ楽しく自由にショッピングをするまでは、まだまだ遠い道のりです。でもやれることから今年は進めていきたい50年に一度のパラリンピックの年に何か一つでも実現したいと思っています。